

南山教会結婚講座

結婚は 愛に基づき 愛において成長し 愛の完成へと向かう

ボグスワフ・ノヴァク(南山教会主任司祭)

1. 人生と結婚の目的

結婚は成功するために、夫婦が互いに見詰め合うことだけでなく、互いに同じ方向を見、同じ目的を目指す必要があります。

☞ 「主なる神は言われた。「人が独りであるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそわたしの骨の骨／わたしの肉の肉。これをこそ、女（イシャ）と呼ぼう／まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。」(創世記 2,18-25)

☞ 「神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」創 1,26-28

「愛によって人間をお造りになられた神は人間を愛へとお招きになりましたが、これはすべての人間に内在する根本的な召し出しです。人間は「愛である」(1ヨハネ 4, 8-16 参照)神にかたどり、神に似せて造られたからです。神が人間を男と女とに造られたので、男女の相互愛は、人間を愛される神の絶対で不滅の愛を映し出すものとなります。この相互愛は創造主の目にはよいもの、きわめてよいものなのです。神によって祝福されたこの愛は、子供を産み、被造界を維持する共同の働きを行うことを目指しています。「神は彼らを祝福していわれた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ』(創世記 1,28)」(カトリック教会のカテキズム 1604)

- ◇ 人間が神によって創造されたのは、神の命に参加し、神ご自身の幸福にあずかるためなのです。
- ◇ この目的に達するためには、利己心から自由になって、愛に生きる必要があります。
- ◇ 愛する能力は、人間の最も優れた能力であって、人間の本質なのです。
- ◇ 結婚は、完全な愛（結果的に神との一致と永遠の幸福）への一般的な道です。
- ◇ 神が定めた結婚には、二つの主な目的があります。
 - 第一の目的とは、生命を伝えることです。
 - 第二の目的とは、互いに愛し合うことによって絆を深め、生まれる子どもに愛を与えることです。

◆ 人間関係の段階

1. **知人** - 他人についての情報を集め、自分の気持ちを調べる、話しは表面的。
2. **友人** - 一緒にいろいろな経験をしたり、互いに楽な気持ちで共にいたりするが、まだ相手を調べていて、安全な距離を保って、どこまで自分の心を開いていいかがまだわからない。
3. **友情** - 相互の関心に傾倒（献身、コミットメント）し、どんな状況においても、一緒にいて、相手の善のために全力を尽くすと決心する。互いの関係に忠実に生き、それを深めることは、何よりも重要なことになる。共にいる時は、安心し合い、信頼し合い、心を開き、親密さを体験する。
4. **一致** - 沈黙が自然なものとなり、一体となる体験、親密さが深まる。

2. 愛とは何か

☆ イエス・キリストが愛のもっとも完全な模範を示してくださいました。

愛は、他者のために真の幸福を求め、力を尽くして善を行うことである。

☞ 「友のために自分の命を捨てる（奉獻する）こと、これ以上に大きな愛はない。」 ヨハ 15:13

☞ 「たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。」 1 コリ 13:1-8

2.1. 愛は、相手のために生きるという無条件の決断である（commitment, コミットメント、献身、傾倒、誓約である）。感情を含むが感情だけではない。

☞ 「わたしは、あなたととこしえの契りを結ぶ。わたしは、あなたと契りを結び／正義と公平を与え、慈しみ憐れむ。わたしはあなたとまことの契りを結ぶ。あなたは主を知るようになる。」 ホセ 2:21-22

☞ 「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」 1 コリ 6:19

2.2. 愛は、相手は無償で、無条件に、ありのままに受け入れることである。（愛によって相手をより深く知るようになる。相手が貴くて、価値のある存在であることを相手に知らせる。良いところの発展を支えながら、間違っているところや悪いところを見過すのではなく、正すように協力し、相手を高める。）

☞ 「主があなたがたを愛し、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの国民よりも数が多かったからではない。あなたがたはよろずの民のうち、もっとも数の少ないものであった。ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。」（申 7:7-8）

☞ 「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」 マタ 5:44-45

2.3. 愛は、一時的なものではなく、いつまでも続くものである。

☞ 「遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し、変わることなく慈しみを注ぐ。」 エレ 31:3

☞ 「愛は決して滅びない。」 1 コリ 13:8

2.4. 互いに愛し合う人は、自分の幸福よりも、どんな状況の中でも、（互いに支え合い、助け合い、守るために）一緒にいること、互いの絆を深めることを求める（愛の目的は、幸福などではなく、愛の完成である一致です。幸福は、副産物のようなものです。）

☞ 「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 マタ 28:20

📖 「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもつに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」ヨハ 14:3

📖 「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」創 2:24

📖 「かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。」ヨハ 14:20

2.5. 愛は、相手に、または互いに依存する関係（共依存）ではなく、執着でもない。

- ◆ 愛は、ただ自由の中でだけ成長して行くので、相手の自由を尊敬する。（自分の満足や楽しみのために他者を利用したり、操ったり、支配しようとしたりしない。他者がいつも自分と一緒にいることを求めても、この人には自分と一緒にいる義務とか、自分のために生きる義務がないので、それを要求する権利がない。）
- ◆ 愛する人は、自分の自由を保つ。（相手と一緒に生きること、相手の善のために尽くすことは、自分の自由な選択であって、相手が要求できることでも、強制させることでもない。相手なしに生きることができないという考え（気持ち）は、愛を表すものではなく、依存を表すものである。）
- ◆ 本当に愛し合う人は、人間として成長し、絶えずより良い人間になっているが、依存の関係に生きる人は、成長せずに、その状態が段々と悪くなっていく。

3. 愛に生きるために理解すべきこと:

- ☞ 自分の幸福や不幸は、周りのものによるのではなく、自分の心の状態によるものなのです。
- ☞ いつも自己中心に生き、自分の利益（満足、楽しみ、幸福など）だけを求める人は、どんな状況においても不幸です。
- ☞ 愛の心をもつ人、つまり他の人の善を求めている人は、あらゆる状況においても幸せです。
- ☞ 愛は、それに生き、実行することによって成長するものです。従って絶え間ない努力が必要です。
- ☞ 子どもは、親が自分の楽しみのためとか、自分の野心や夢の実現のために所有し、利用するものではなく、親より弱く、親の助けと支えを必要としていても、親と平等に、尊敬すべき、愛すべき独自の人間なのです。

4. 互いの関係を深める(絆を強める)ために夫婦の対話の必要性

1. (一方的に) 話すよりも聞くこと
2. 議論するよりも、分かち合うこと
3. 評価(批判)するよりも、理解すること
4. いつも、相手を赦す覚悟をもち、必要な時に赦しを願うこと

5. 相手に対する期待や要求(頼み、望み、願い)の表現の仕方とその結果

- A. **あらゆる望みを自由に(気楽に)言い表すことができる家族**
時々、自分の望み通りにならないことを覚悟していますので、誰もそれを満たさなくても、問題にしません。
- B. **重要な望みだけを言い表すことができる家族**
言い表した望みが必ず満たされるという前提がありますので、満たされないことを、自分自身の否定や恥や侮辱として受け入れます。
- C. **自分の望みを言い表さない家族**
自分の望みを言い表さなくても、家族の誰かがそれに気が付いて、そして満たしてくれるという期待があります。自分の望みが満たされないときは、がっかりして、自分が無視されている、愛されていないように感じます。

カトリック教会の結婚式次第より

意志の確認

司祭 「〇〇さんと〇〇さん、お二人は自らすすんで、この結婚を望んでいますか。」

新郎新婦 「はい、望んでいます。」

司祭 「結婚生活を送るに当たり、互いに愛し合い、尊敬し合う決意をもっていますか。」

新郎新婦 「はい、もっています。」

司祭 「あなたがたは、恵まれる子供をまことの幸せに導くように育てますか。」

新郎新婦 「はい、育てます。」

結婚の誓約

司祭 「それでは、神と私たち一同の前で結婚の誓約をかわしてください。」

司祭 「〇〇さん、あなたは〇〇さんを妻としますか。」

新郎 「はい、いたします。」

司祭 「〇〇さん、あなたは〇〇さんを夫としますか。」

新婦 「はい、いたします。」

司祭 「それでは、一緒に誓いを立ててください。」

新郎新婦 「私たちは夫婦として、
順境にあっても、逆境にあっても、
病気のときも健康のときも、
生涯、互いに愛と忠実を尽くすことを誓います。」

司祭 「私は、お二人の結婚が成立したことを宣言します。お二人が今、私たち一同の前でかわされた誓約を神は固めてくださり、祝福で満たしてくださるように。」

指輪の贈呈

新郎新婦 「この指輪は、私たちの愛と忠実のしるしです。」

新郎新婦の祈り

司祭 「今、喜びと感謝をあらわし、そして新しい家族が神から頂くまことの平和で満たされるように、
《平和を願う祈り》を唱えてください。」

新郎新婦

「神よ、わたしを平和のために働く者としてください。
憎しみのあるところに愛を、争いのあるところに和解を、
分裂のあるところに一致を、疑いのあるところに信仰を、
誤っているところに真理を、絶望のあるところに希望を、
闇に光を、悲しみのあるところに喜びをもたらす者としてください。
慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、
愛されるよりは愛することを求めますように。わたしたちは与えるから受け、
ゆるすからゆるされ、すべてをささげて永遠のいのちをいただくのですから。」